

学び続ける術や意欲を得ていく家庭学習のあり方についての研究

藤上 真弓

A Study on Homework Methods to Develop Learning Strategy and Learning Will

FUJIKAMI Mayumi

(Received January 5, 2017)

キーワード：家庭学習、学習意欲、学び続ける個、自己マネジメント、家庭との連携

はじめに

宿題は、担任の思いや考えによって内容や量が異なることが多い。それは、各担任の持ち味や教育観に応じているからゆえであるが、第1学年から第6学年に進級するに伴い、段階的に内容や質、量が変わっていくのではなく、教師個人の方針だけでそれらが変わっていくことに対して、保護者や子どもはどのように感じているのであろうか。「例年のことである」と思いながらも、同じ学校内においてあまりにも個々の担任によって宿題に対する方針が異なることに対して、不信や不満を感じている場合もあるのではないだろうか。

筆者自身も、宿題の取組はある程度、その担任の持ち味や子どもたちの実態に応じて工夫する余地が残されている方がよいと考える。そして、担任と子どもとの信頼関係のもとに、宿題の目的や具体的な取組のよさが共有されているのであれば、宿題は子どもたちの成長に貢献できると考えるからである。子どもたちの成長が保障されれば、保護者の安心にもつながる。

しかしながら、子どもの小学校生活6年間、そして、それ以降の学びと育ちを保障し続けるためにも、校内で、発達段階や子どもたちが抱える課題に応じた家庭学習の取組時間のめやすや取り組ませるべき内容・方法等についての共通理解のもとに取り組んでいかねばならないと考える。ここで、「宿題」ではなく「家庭学習」と言葉を言い換えている。その理由は、「宿題」は教師に与えられるものであって、「家庭学習」とは「宿題」を含め、家庭において取り組む自主的な学習も含めて、教師や子どもの取組のあり方を模索していく必要を感じたからである。

子どもには、自身に与える家庭学習の効果を実感させ、自分なりの目的意識をもって取り組ませない限り、「家庭学習」は、いつまでも子どもたちにとって「やらされる学習」のままであるのではないかと考える。子どもの学習上の自立を促すためにも、「宿題」にとどまらず、「自主学习」を含めた「家庭学習」のあり方についてとらえていかねば、子どもが今後学び続けるために必要な術を蓄積してたり、意欲をもったりしていくことは難しいのではないかと考えた。

1. 研究の目的・視点や方法

1-1 研究の目的

教職員、子どもと保護者が、家庭学習のあり方やそれを支える子どもたちの生活のあり方等について共通理解しながら取り組んでいくことで、子どもたちの学びと育ちを保障し続けたいと考えた。

また、自分の受け持った学級に応じた具体的かつ効果的な取組のあり方を模索していく。そして、子どもが自分の得意分野や苦手分野を把握し、それらを意識しながら、新たな探究を始めることができるような家庭学習のあり方を模索していく。このように、子どもが自分自身の学びの状況をメタ認知できるようになることで、自分で学ぶための術を身に付けたり、意欲をもったりできるのではないかと考えた。それは、自分の学びをマネジメントする力を身に付けることにつながると考えた。

1-2 研究の方法

表1のような方法で、子どもが学び続ける術や意欲を得ていく家庭学習のあり方を模索したいと考えた。

表1 研究の方法

<ul style="list-style-type: none"> ■教職員、保護者と子どもが家庭学習のあり方について共通理解できる冊子「公集小学問のすすめ～公集っ子家庭学習応援ブック～」の作成 ■各学級での取組を充実させていく「成長を実感する自主学習のススメ」の作成 ■子どもたちの変容の様子を蓄積する振り返りカードの作成とそこに現れた子どもの学びの事実の分析

2. 研究の実際

本研究は、筆者が、平成23年度～平成25年度の間、下松市立公集小学校で研修主任、学級担任として勤務していた際の実践についてまとめたものである。その中でも、特に平成25年度の実践について述べていく。

2-1 学校全体の取り組みにするために

2-1-1 公集小「学問のすすめ」の作成のねらい

平成22年度から、子どもたちの学力向上を図っていくために、家庭学習応援ブックとして「公集小『学問のすすめ』」を作成し、活用した。これを作成し、教職員、子ども、保護者が活用することで、家庭学習のあり方やそれを支える子どもの生活のあり方等についての、共通理解が進むと考えた。そして、それぞれの立場に表2のようなメリットがあると考えた。

表2 「公集小『学問のすすめ』」を作成・活用することで生み出されるメリット

教職員	担任	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が受け持っている学年で行うべきことを明確に把握できるとともに、小学校6年間の子どもの学びを意識することができる ・「学びのつながり」を意識し、家庭学習で、各学年で身に付けさせなければならない基礎的・基本的な内容の定着を図ることができる ・日々の授業の中で、子どもが身に付けてきた知識・技能、見方・考え方の活用を図る授業のあり方について、見つめることができる
	養護教諭 栄養士 等	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人ひとりの専門性を生かした取組を行うことができ、どの立場の教職員も子どもたちの学びや育ちに貢献できているという実感をもつことができる ・自分の仕事内容は子どもの学びや育ちにつながる実感をもつことができれば、自分の立場から何ができるかという新たな提案を生み出すことができる
	子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた学習内容や家庭学習に取り組む時間のめやすについて、知ることができる ・宿題や自主学習に取り組む意味や価値をとらえながら、家庭学習に取り組むことができる ・自分にふさわしい自主学習の方法や内容を知ったり、自分なりに考えたりすることができる ・基礎的・基本的な内容だけでなく、身に付けてきた知識・技能、見方・考え方を活かしていくような発展的な学習に取り組む際の助けとなる ・取組時間を意識し、自分の状況に応じた取り組み方について考えることができる
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の意味、学校としての取組の意図や内容等について把握でき、子どもがなぜその家庭学習に取り組んでいるのかについても理解できるようになる ・学年に応じた子どもへの声掛けや励まし方等を捉えやすくなる ・子どもが学習に取り組みやすい生活のあり方について見つめ直すことができる

毎年、4月当初に筆者が冊子案を作成し、各学年や各校務分掌等で検討してもらった。この検討により、教職員は、担当する学年の学習内容・学習方法や、自分の校務分掌とのつながりを把握した上で活用できるようにした。また、毎年自主学習ページをより具体的に更新し、より活用しやすいように工夫した。

2-1-2 平成25年度版「公集小『学問のすすめ』」の実際

① 平成25年度版「公集小『学問のすすめ』」の内容選択の意図

図1は、平成25年度版「公集小『学問のすすめ』」の表紙と目次である。

「目指す教育や子どもの姿」のページには、公集小が目指す子どもの姿だけを掲載するのではなく、日本や山口市、下松市の教育で目指すことを紹介し、全てはつながっているということを教職員や子どもたち、保護者もとらえることができるようにした。

そして、「公集小の教職員の取組」のページでは、目指す教育や子ども像を具現化するために、公集小学

校において教職員が取り組んでいる具体について、保護者にとらえてもらうことができるようにした。それとともに、教職員も、自分たちが取り組んでいることの意味や価値について再認識できるようにした。

「家庭学習の意義」の欄には、養護教諭や栄養士等にも関わってもらった。校内研修となると、授業中心の議論を展開しがちだが、学力を下支えするために必要な生活面・健康面に関する部分において、専門性を発揮してもらおうようにした。学校がチームとなって子どもを育てていくためにも、学校の様々な立場の人々が自分の居場所ややりがいを見いだせる校内研修にする方途を模索せねばならないと考えた。

② 「保護者の皆様へ」のページ作成の意図

図2は、「保護者の皆様へ」のページである。これは特に、低学年の保護者を意識して作成した。保護者による子どもの家庭学習への支援の程度は、発達段階によって異なるからでもある。低学年の保護者には、まずは子どもたちと一緒に取り組むことを期待したいので、子どもたちとかかわらないとできない声掛けを具体的に掲載した。そして、上の学年に向けて、自立を徐々に促すことの必要性や、学習だけに留まらず、子どもが多く体験をすることの大切さにも目を向けていくことができるページになるように心掛けた。

ここでの留意点は、保護者が学校側にやってほしいことを押しつけられたという思いをもたないようにしていくことである。学校側からのお願いだけでなく、連絡帳や学級通信、学年通信等を活用して、双方向のやりとりが行われるように工夫しなくてはならない。

③ 低学年・中学年・高学年のページ作成の意図

図3と図4は、表3の内容を教職員と子ども、保護者とで共有するために作成したページである。

平成25年度

こうしゅうしょう がくもん
公集小「学問のすすめ」
～公集小家庭学習応援ブック改訂版～

学校で学んだことを、家庭学習でしっかり定着させよう。

「がんばっている自分」に自信をもとう！

目次

- ☆保護者の皆様へ 1
- ☆公集小「学問のすすめ」に書かれていること 2～3
- 目指す教育や子どもの姿**
- ☆今、我が国の教育が目指そうとしていること 4
- ☆山口県の教育で目指していること 5
- ☆下松市の教育で目指していること 6
- ☆公集小学校教育目標 7
- 公集小の教職員の取組**
- ☆公集小教職員が、子どもたちの学力向上のために取り組んでいること 8～11
- 家庭学習の意義**
- ☆正しい生活習慣が学習する土台をつくる！ 12～13
- ☆家庭学習の大切さ 14
- 公集小低・中・高学年の「学問のすすめ」**
- ☆保護者の皆様へ 15
- ☆公集小「学問のすすめ」1、2年生 16～17
- ☆公集小「学問のすすめ」3、4年生 18～19
- ☆公集小「学問のすすめ」5、6年生 20～21
- 学び方紹介コーナー**
- ☆こんな音読できるよ 22～23
- ☆新聞を活用すると 24～25

図1 平成25年度版「公集『学問のすすめ』」の表紙と目次

保護者の皆様へ

【お願い】

- マンガやゲームなど、気が散るものは側に置かないようにしましょう。
- 学習したことをみてあげてください。
- よいところを見つけて、ほめてあげてください。

例えば、

- きれいな字が書けたね。
- 計算を間違えずにできたね。
- すらすら読めたね。
- がんばったね。

- 読書に親しませましょう。
学校や図書館から借りてきた本など、読みたい本を読むようにさせましょう。
- 自分で時間割や学習用具をそろえさせるようにしましょう。
- 一日の生活時間帯（勉強する時間・テレビやゲームをしよう時間など）を決めておきましょう。
- いろいろな体験をさせましょう。
（お手伝い・自然の中での遊び・地域活動への参加・家庭内での年中行事や催事）

図2 「保護者の皆様へ」のページ

公集小「学問のすすめ」
1・2年生

① **べんぎょうのやくぞく**

- ☆テレビは けしきましょう。
- ☆へやは あかるくして べんぎょうしましょう。
- ☆えんぴつ、したじき、ものさし、けしゴムを ぞろえましょう。
- ☆かみやす ししたじきを ひききましょう。
- ☆えんぴつは ただしくもって ていねいに かき きましょう。
- ☆よいしせいぞ べんぎょうしましょう。

② **べんぎょうじかんのやくぞく**

がくしゅうじかん

- ☆1ねん 10ぶんいじょう
- ☆2ねん 20ぶんいじょう

③ はじめに しゅくだいを しましょう。 つぎに じしゅべんぎょうを しましょう。

*しゅくだいをして、まだじかんがあるときには、じしゅべんぎょうにチャレンジしてみよう。

④ **べんぎょうがわったら**

- ☆べんぎょうしたことをおうちのひとにみてもらいましょう。
- ☆あしたのがっこうのじゅんびをしましょう。
- ☆がっこうでべんぎょうしたプリントやテストはせいりしましょう。

公集小「学問のすすめ」
3・4年生

① **勉強を始める前に**

- ☆どこで勉強しますか？（静かで集中できる所）
- ☆学習する時は、テレビや音楽を消して取り組みましょう。
- ☆勉強する準備ができていますか？（けしつたえんぴつ、下じき、消しゴム、ものさし）
- ☆どのくらいできそうですか？
- ☆自分なりのめあてをもって、集中して勉強しましょう。

② **勉強時間の約束**

学習時間 30～40分以上

③ はじめに 宿題をしましょう。 つぎに 自主勉強をしましょう。

*宿題に取り組むだけでなく、家庭学習の中に、少しずつ自主勉強を取り入れましょう。

④ **勉強が終わったら**

- ☆明日の学校の準備をしましょう。
- ☆学校で勉強したプリントやテストは整理し、間違いがあつたものは、自主勉強に取り組む時に活用できるようにしておきましょう。

公集小「学問のすすめ」
5・6年生

① **勉強を始める前に**

- ☆どこで勉強しますか？（静かで集中できる所）
- ☆学習する時は、テレビや音楽を消して取り組みましょう。
- ☆何を勉強しますか？
- ☆復習（学校で学習したことの確認、テストの出題範囲など）や予習（これから学習する内容を事前に確認）も取り組みましょう。
- ☆自分で興味をもつことを深めましょう。
- ☆どのくらいできそうですか？
- ☆自分なりの目標を決めて、努力しましょう。

② **勉強時間の約束**

学習時間 50～90分

③ はじめに 宿題をしましょう。 つぎに 自主勉強をしましょう。

*宿題に取り組むだけでなく、家庭学習の中に、少しずつ自主勉強（予習・復習）を取り入れましょう。

④ **勉強が終わったら**

- ☆明日の学校の準備をしましょう。
- ☆学校で勉強したプリントやテストは整理し、間違いがあつたものは、自主勉強に取り組む時に活用できるようにしておきましょう。

図3 低学年・中学年・高学年のページの内容

表3 低学年・中学年・高学年のページで共有すること

・家庭学習の取組時間のめやす	・学習環境を整えることの大切さ	・学校の学びと家庭学習のつながり
・学習内容の系統性	・多様な学ぶ内容や方法	等

図4は、加工可能な形式でダウンロードできるようにしてあるベネッセ教育研究総合研究所のウェブサイト¹⁾にあるものを活用して作成した平成22年度版のものである。掲載内容に関しては、筆者が加筆修正したものをもとに、低・中・高学年部で検討して、子どもたちの実態や学年の学習内容・学習方法等と照らし合わせながら、より具体的に活用しやすいものにしていった。

学問のすすめ 1・2年生の学習内容・学習方法のめやす

◎しゅくだいが終わった人は、漢のようなしゅべんきょうにチャレンジしよう。

学年	1年生	2年生
よみ	音どく	○こえをだして教科書をくりかえしよみましょう。
	どくよ	○すらすらと、はっきりとしたこえで、よみましょう。「、」「。」「では、やすんでよみましょう。
	漢字の読み	○あなしゅべんきょうをよんでよみましょう。
	漢字の読み	○あたらしいかん字は80字です。 ○(1年生で習う漢字は80字)あたらしいかん字は160字です。
かき	複写・臨写	○本をみながら、ききながらノートにかきうつすはやくさは、1分間で20文字いじょうか力がひつようだと書かれています。
	日記	○いつ、どこで、だれが、どうしたかがわかるようにかきましょう。
	かん字	○1年生でならうかん字80字 ○(1年生で身に付けておくかん字80字)2年生でならうかん字160字 ○ドリルや教科書をつかって、くりかえしノートにれんしゅをしましょう。お手本をよく見て、正しい筆順で、おくりがなにも気をつけてかきましょう。ならったかん字を、文や文しょうのなかでつかってみましょう。
けいさん	計算ドリル	○その目にならったノートやプリントをみて、にたようなもんだいをやってみましょう。 ○いままでならったところのドリルをくりかえしれんしゅをしましょう。
	かけざん・九九	○かけざん九九は、しっかりおぼえ、つかえるようにならう。
	文章題	○おはなしのもんだいは、えやずなどにあらわして、かんがえるようにならう。もんだいづくりをしようせんしてみましょう。
そのた	しらべる	○しらべるべんきょうでは、人にインタビューをしたり、としよつの本をつかってしらべたりすることができるようにならう。
	かんがえる	○こどもしゅべんきょうをよんでよみましょう。

まいにちべんきょうするしゅべんきょうをつづけることがたいせつです。がんばりましょう。

しゅくだいしゅべんきょうをやってわからないことがあったときは、そのまましないで、おうちのひとやせんせいにきくようにならう。わからないことはつけてはくさいことではありません。

図4 低学年の学習内容・学習方法のめやす

2-2 学級（第4学年）における取組

2-2-1 「成長を実感する自主学習のススメ」の活用

まず、4月に、自主学習のねらいや自主学習ノートの活用の仕方などを共通理解するために、平成24年度に作成した第6学年版を改訂して、「成長を実感する自主学習のススメ（第4学年生版）」（図5、図6）を配布した。これを活用して、自分の日々の積み重ねを実感できるノートの記述の仕方やノートを美しくまとめる意味、家庭学習の意味などについて、指導した。

成長を実感する自主学習のススメ

平成25年4年生用

さあ！ 今日から、自分の「ステキ」を開発だ！

＜その1＞やる気が出るノート名を付け、何さつ目、名前を書こう！

- ・学習を助けてくれるノートなので、気持ちよくなって、名前を付けることで思い入れもアップします。
- ・たくさん積み重ねていくと自信が付ききます。

＜その2＞各ページに、「ページ数」「日付と曜日」「時間（学習を始めた時間と終わった時間）」を書こう！

- ・自分のがんばりや成長が目に見えて、自信が付くとともに、やる気もアップします。
- ・時間を自分自身で管理できるようになります。

No.1 4月9日(月) 5:30~6:15

ページ数を書こう。

色々な「月」の書き方に挑戦してみよう。

回暦	西暦
☆1月 睦月 ☆2月 如月	☆1月 January ☆2月 February
☆3月 弥生 ☆4月 卯月	☆3月 March ☆4月 April
☆5月 皀月 ☆6月 水無月	☆5月 May ☆6月 June
☆7月 文月 ☆8月 葉月	☆7月 July ☆8月 August
☆9月 長月 ☆10月 神無月	☆9月 September ☆10月 October
☆11月 霜月 ☆12月 師走	☆11月 November ☆12月 December

例えば、5月3日だったら、「皀月3日」や「May 3, 2012」と書けばいいだね。ちょっと挑戦してみよう。

＜その3＞取り組む時間を意識しよう！

- ・家庭学習のめやすは、「**学年×10分**」以上と書かれています。
- ・4年生だったら「**4学年×10分＝40分以内**」です。
- ・**宿題もふくめて、40分以上を目指して**自主学習に取り組んでみましょう。
- ・家に帰って、いろいろな予定がある人は**段取り力**を付けて、すき間時間を活用していくとよいです。高学年になっても、中学校になっても、大人になっても、**段取り力**はじょうずな生活を送っていくために必要です。20分と10分と30分などというように分けて取り組むとよいでしょう。

脳の集中時間は、45～50分だと言われています。

自分の家庭学習のペースを、しっかりとつかみましよう。

曜日によって予定がちがうでしょうから、例えば、「バスケットボールの練習がある日は、行く前に20分漢字をして、帰ってから15分で計算ドリルをして、残った時間は自主学習をしよう」というように、**その日に適した段取り**を自分でイメージすることが大切です。

でも、**体調の管理が最優先（さいゆうせん）**です。熱があったり、体の調子が悪かったりする時に、無理をしすぎないようにしましょう。

学習時間の管理や自分の体調管理もできるようになっていきましょう。

＜その4＞見やすく、美しいノートをつくらう！

- ・だれかに見せる意識をもって、素早く、ていねいに書けるようにならう。
- ・**ざつと書くと、ざつな文字のまま、頭の中に入っていきそう**です。
- ・大事なのは色で囲んだり、色えん筆を使って字を書いたりして、見栄えよく書きましょう。
- ・色を使うことで、脳（のう）に対してしげきを与えて、脳（のう）をより活発にさせるとトニー・ブザンという人が言っています。
- ・すき間を上手に使いましよう。
- ・行の頭をそろえると、内容のまとまりや考えの流れ、切れ目が見えてきます。
- ・グラフや資料、写真などは、時間の短縮のため、コピーしてはるようにならう。

自分がデータを整理してグラフを作成する場合は、もちろん手書きで書かましよう。（パソコンでまとめられる人は、パソコンでデータの整理をしてもよい。）

かきやすより、グラフや資料、写真などから読み取れることを探ったり、活用したりすることの方が重要だよ。

おうちでコピーできない場合は、先生に学校でコピーしてもらおう！（何でもかんでも、学校ではコピーできないので、先生に相談してみよう。）

図5 「成長を実感する自主学習のススメ（第4学年版）」の1ページ目と2ページ目

「成長を実感する自主学習のススメ」に掲載されている方法に慣れてきたら、自分なりの方法で、こだわりをもってノートをもとめることができるようになってほしいと願った。

そこで、ノートのまとめ方や取り組み方に工夫が見られる子どものノートを学級通信に掲載したり、コピーして掲示したりして紹介した。図7は、常に、ノートのレイアウトを工夫している子どものノートである。

また、ノートが終了したら、教室に展示し、誰もが開いて参考にできるようにした。それだけでなく、冊数ごとに入れておくボックス（図8）を変え、自分や仲間の頑張りを目に見えるようにし、子どもの意欲が持続していくようにした。

日数が経つにつれ、箱に入っているノートを朝自習の前や休み時間に見る子どもも増え、友達のこだわり研究をじっくり読んだり、冊数がどんどん進んでいる子どものノートから自主学習を進めるヒントを得たりしようとする姿が見られた。

また、使い終わったノートの表紙には、図9のように終了日を記述し、自分の自主学習の取組のペースをとらえさせたり、次のノートは何日間で全てのページを使い終えるようにしたいのか、めあてをもったりすることができるようにした。

<その5>キャラクターなどを用いて、学習のポイントや目の付け所、課題解決の方法などについて説明させよう！

- ・オリジナルキャラクターをつくり、楽しみながらまとめよう！
- ・キャラクターは、簡単にかけられるものでないと時間がかからない！
- ・自分の言葉で説明しよう！

私は、よく下にあるようなキャラクターを使います。

まず、～するよ。次に、～するよ。最後に、～するよと答えが出るわ。

ここがポイント！

キャラクターを使うことが大切なわけではありません。ポイントが分かるような工夫をしたり、分かったことを整理したりすることが大切です。ノートに付いているシールなども活用すると簡単になれますね。

<その6>見開き2ページにうまくおさまるように、書き方を工夫しよう！

- ・何ページ取組んでもよいのですが、どの内容も、見開き2ページにおさまるようにまとめられると、あとで振り返る時に、ポイントがはやく分かります。また、まとめ方も上手になっていきます。
- ・例えば、計算ドリルの自主勉強に取り組んだ時には、最後に何行か余る場合が多いですね。そういった時には、以下のように**計算の仕方**のポイントや**自分がミスしやすいところ**を書きましよう。こういったことを**自分の言葉**で説明できる方も、今求められていることです。

(2けた) ÷ (1けた) の筆算の仕方のポイントは、次のようなものである。
 例えば、72 ÷ 3 だったら、
 ① 割られる数の十の位に目を付ける [たてる]
 ② 7を3で割る [かく]
 ③ 3に2をかけて6 [かく]
 ④ 7から6をひく [ひく]
 ⑤ 割られる数の一の位の2をおろす [おろす]
 ⑥ 12を3で、4をたてる [たてる]
 ⑦ 3に4をかけて12 [かく]
 ⑧ 12から12をひいて0 [ひく]

<その7>書き残すことができない自主勉強をした時にも、感じたことやその勉強のポイントなどをしっかりと書き残して、次に生かそう！

- ・「テスト勉強で社会の教科書を読んできました。」「音読をしました。」というのも自主学習ですが、もっと深く学んだことを最後に生かしていくためにも、大切なキーワードを抜き出し、それらを自分の言葉で説明し直したりしてみましよう。

物語の中へ人物の決め手は、以下の3つだと考えた。
 1つめは、……
 2つめは、……
 3つめは、……

図6 「成長を実感する自主学習のススメ（第4学年版）」の3ページ目

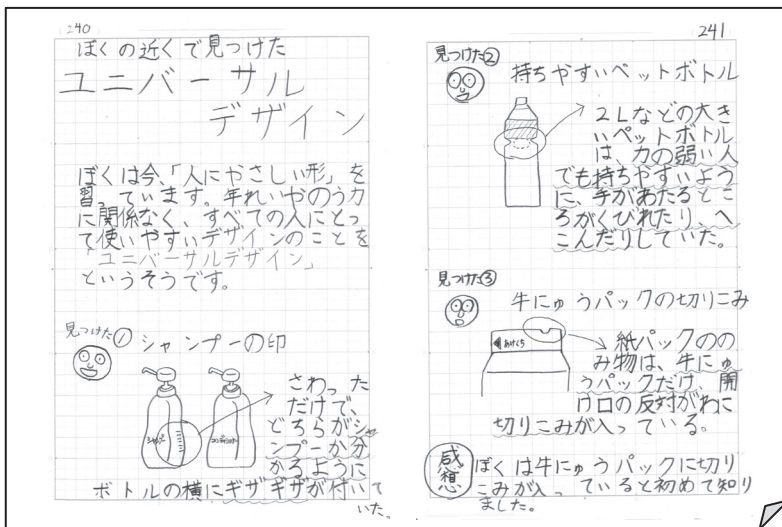


図7 レイアウトを工夫しているノート例

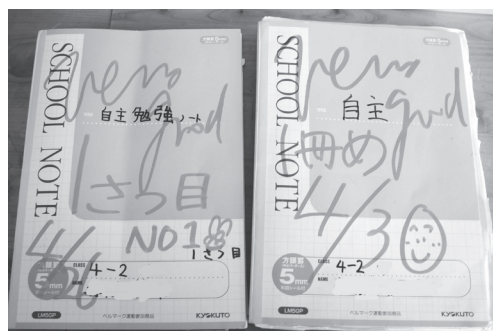


図9 使い終わった自主学習ノートの表紙

自主勉強ノート1さつ目終了よう！

1さつ目で、学習の仕方や習かさんが身に付いてきたことでしょう。
 がんばっている自分に、自信をもちましよう。
 友達のノートを見て、まとめ方や取り組み方を参考にしよう。

自主勉強ノート2さつ目終了よう！

2さつ目も終わりましたね。自主学習も、当たり前のことになってきたことでしょうかね。
 当たり前になってきた今、しっかりと取り組む内容を振り返ってみましようね。

自主勉強ノート3さつ目終了よう！

もう、3さつ目も終わりましたね。すごい！
 自主勉強をして、自分には、どんな力が付いたと思いますか？そういったことについても、自分で見つめられるようになるとよいですね。

図8 自主勉強ノートを入れるボックスに貼った担任の声掛け

2-2-2 家庭学習のメニュー紹介

また、「平成25年度公集小『学問のすすめ』」（公集っ子家庭学習応援ブック改訂版）に掲載している自主学習の種類は限られるので、図10のように、多様な自主学習について紹介した。

そして、誰もが自主学習に無理なく取り組めるようにするために、「お助けプリントコーナー」を設けた。そのコーナーには、授業で用いた資料や学んだことに関連するプリント、これまでの学年の復習プリント、発展問題プリント、「やまぐちっ子学習プリント」²⁾などを入れておき、自由に取って自主学習の際に活用できるようにした。

2-2-3 「家庭学習カレンダー」による振り返り

第4学年に家庭学習に取り組ませたい時間は、40分以上と考えた。また、取り組む内容にどのような傾向があるのかも、自覚してほしいと考えた。

そこで、取り組む時間や取り組んだ内容を記述できる図11の「家庭学習カレンダー」を用いて、自分の家庭学習の取組を記録させた。そして、1週間ごとに、ページ数や取組時間の合計、今の時点の取組冊数を記録させ、週ごとの取組を比較できるようにした。

月の終わりには、1ヶ月の自分の取組について見つけられる図12の振り返りカードを用いて、自分が積み重ねてきた学習時間やページ数を数値化させた。そうすることで、子どもは、1ヶ月前に自分が立てたためあてと照らし合わせて自分の頑張りを実感することができた。また、自分の取組の不十分な点を見つめ、今後、どのように取組を変えていったらよいかについても、考えることができた。

図13は、A児の自主学習ノートの記述である。A児は、自主学習ノートが最終ページにたどり着いた際に、自分でそのノートの取組の内容やペースなどについて振り返ることができた。A児の「5冊目終了ボックスを3人は、今何冊目かなあ。」という記述から、自分の自主学習の取組の多さに自信をもつとともに、自分と同じぐらいのペースで冊数を増やしている仲間の取組具合にも関心をもっていることが分かる。また、「今、緑色です。次回は、何色かな。」という記述や、新しいノートを持って、「今度は、このノートです。表紙の色や模様がきれいだったから、これにしました。切りのよい冊数なので、特別バージョンにしました。」と担任ににこにこしながら伝えにくる様子から、自分の頑張りが思いや願い、こだわりなどがつまっている自主学習ノートに対する愛着も深まっていったことが分

家庭学習のメニュー

【ばっちりメニュー例】

- ★今日の授業の復習
- ★新出漢字の書き順づくり、語の成り立ち
- ★漢字を使って文章づくり
- ★国語の予習音読、音読
- ★「これであなも物語文名人」をもとにした今習っている説明文やこれまで習った説明文、新たに出会う説明文の分せき
- ★「これであなも物語文名人」をもとにした今習っている物語文やこれまで習った物語文、新たに出会う物語文の分せき
- ★家でやっている問題集のコピー
- ★テストのまちがい直し
- ★テスト勉強
- ★計算ドリル
- ★算数の予習（分らないところ探し）
- ★授業でやった文章問題のポイント解説
- ★算数の文章問題づくり（式ど答えも）
- ★理科・社会の予習音読
- ★理科の実験の手順予習
- ★理科・社会の予習のまとめ
- ★お助けプリント（教室に置いておくので選んでとる）
- など

【わくわくメニュー例】

- ★作家活動（物語づくり）
- ★読書（読んだページ数と読んだ感想、おすすめのポイントを書き）
- ★行すめの本の紹介
- ★俳句（五・七・五）づくり
- ★好きなもの紹介
- ★フリーマーケット集めと語る内容遊び、構成など
- ★社会新聞づくり
- ★ニュースについて思うこと
- ★コンパスを使った模様や形づくりなど
- ★県名、海の名前、日本の地方名、山口県の市町を覚え
- ★植物調べ
- ★星座観察
- ★身近な不思議探し
- ★四文字じゅく語集めや四文字じゅく語マンガづくり
- ★学習のまとめ4コママンガづくり
- ★ことわざやかんじ調べや、それらをもとにしたマンガづくり
- ★写真で色々なもの紹介
- ★リフティング〇回よう戦（サッカー）
- ★その他のスポーツの練習
- ★工作（つくり方と完成写真なども）
- ★ピアノやその他の楽器、リコーダーの練習と今日のポイント
- ★日記
- ★うれしかったことベスト3
- ★ベットのよう介
- ★依頼からのきき・てい案
- ★新聞の切り抜きにコメント
- ★地図号調べ
- ★図形の見取り図や展開図
- ★昆虫調べ
- ★星座の神話調べ
- ★回かん調べ
- ★手広（やったことと気付いたこと）

まだまだ色々あると思うので、力が付くようにしっかりがんばってね。

図10 家庭学習のメニュー [第4学年版]

10月神無月（かんむらぎ）家庭学習カレンダー

4の2名前 []

今月のめあて		物語を2つはかく！									
日	曜日	時間	2ページ以上	漢字	計算	音読	日記	社会	わくわくメニュー	先生のサイン	
30	月	1時間00分	○	○	○	○	○	○	○		
1	火	2時間00分	○	○	○	○	○	○	○		
2	水	1時間5分	○	○	○	○	○	○	○		
3	木	1時間40分	○	○	○	○	○	○	○		
4	金	1時間30分	○	○	○	○	○	○	○		
5	土	1時間5分	○	○	○	○	○	○	○		
6	日	1時間5分	○	○	○	○	○	○	○		
今週の合計時間		9時間 25分	今週の冊数		6冊目		今のページ数		335ページ		

日	曜日	時間	2ページ以上	漢字	計算	音読	日記	社会	わくわくメニュー	先生のサイン
7	月	2時間00分	○	○	○	○	○	○	○	
8	火	1時間00分	○	○	○	○	○	○	○	
9	水	2時間40分	○	○	○	○	○	○	○	
10	木	1時間30分	○	○	○	○	○	○	○	
11	金	1時間00分	○	○	○	○	○	○	○	
12	土	2時間00分	○	○	○	○	○	○	○	
13	日	1時間00分	○	○	○	○	○	○	○	
今週の合計時間		11時間 10分	今週の冊数		6冊目		今のページ数		351ページ	

図11 「家庭学習カレンダー」

1ヶ月の振り返りをしよう

★今の冊数 **7冊目**

★今月進んだページ数
11/30のページ数 (412)
- 9/30のページ数 (335)

77ページ

★今月取り組んだ時間
①週目 (11) 時間 (25) 分
②週目 (11) 時間 (10) 分
③週目 (9) 時間 (25) 分
④週目 (9) 時間 (00) 分
⑤週目 (9) 時間 (15) 分

★今月取り組んだ時間の合計
(47) 時間 (15) 分

自分がんばったことを数字にして実感してみよう!

よくがんばっている。力がともっている感じがする!

【今月のふり振り返り】
今月は、前の月とくらべると、時間は長くな。たもの、ページ数は少なくな。てしまいました!
それに、今月のめあてである、物語を2つは書く、2つというより、0です!一つも書いていません!一冊も手があつていなくて...次は、せたいがかなげれば!

【先生より】
そのときに必要だと思ったものをやるので、大丈夫ですわね。今のめあてとしてやっておいた方がよ。ことじかんね。

図12 1ヶ月の取組を振り返るワークシート

かる。その後も、着実に自主学習に取り組み、冬休みの間も、計画的に2学期の学習内容の復習をしたり、2学期の取組を反省したりしていた。

2-2-4 第4学年終了時の自分の姿のイメージ化

3学期には、第4学年終了時の自分の姿をイメージさせ、自主学習振り返りカードの表紙に記述させた。そして、それらを図14のように学級通信に掲載し、家庭との連携を深めていった。

① 「オリンピックに出る」という夢をもっているB児の場合

B児は、「オリンピックに出る」という夢をもっている。第4年生になって、卓球の練習時間も増え、卓球の練習と学校生活、家庭学習の取組のバランスの取り方について、時々悩みを担任にも打ち明けていた。

第4学年も終わりが近づき、それらのバランスの取り方も生活リズムも整ってきたことを実感し、ずっと持続していこうとするめあてを立てることができた。

② 自分の取組不足を解消したいC児の場合

C児は、「『食事、運動・遊び、読書』90日元気手帳」³⁾の振り返りで、常に読書に対する取組不足を実感していた。それを意識し、読書の取組の向上を図ろうとしていることが分かる。

また、めやすとなる5年生の取組時間を意識しているようにしていることが分かる。

③ 取組意欲が減少していたD児の場合

D児は、1学期前半は、生き物に関する説明文を毎日書いていた。それらの文章は、国語の説明文で学んだ文章構成や述べ方の工夫などを活用できていたので、朝の会や学級通信で、他の児童に紹介してきた。

しかし、2学期の途中には「お助けプリントコーナー」から、自分にとって簡単なレベルのプリントを短時間にやるという日々が続き、少し取組意欲が減少していると感じていた。

冬休みの間は、内容が充実した自主学習に取り組むことができ、意欲も向上していった。だからこそ、「プリントを使わず、自主勉をがんばる」というめあてを掲げたのだと考える。

④ 苦手分野にも着目し始めたE児の場合

E児は、これまで漢字や言葉を中心に自主学習に取り組んできた。E児に限らないが、自分の得意分野に関する自主学習に取り組む子どもが多かった。

しかし、第4学年の後半になるにしたがって、苦手なことや時間が空いてしまうと忘れてしまいがちなこと等を補強するための自主学習に取り組む子どもも増えてきた。「今までの苦手な教科をこくふくしていること」「自主学習をたくさんやること」というE児の記述から、自主学習と苦手教科の克服を関連付けて考

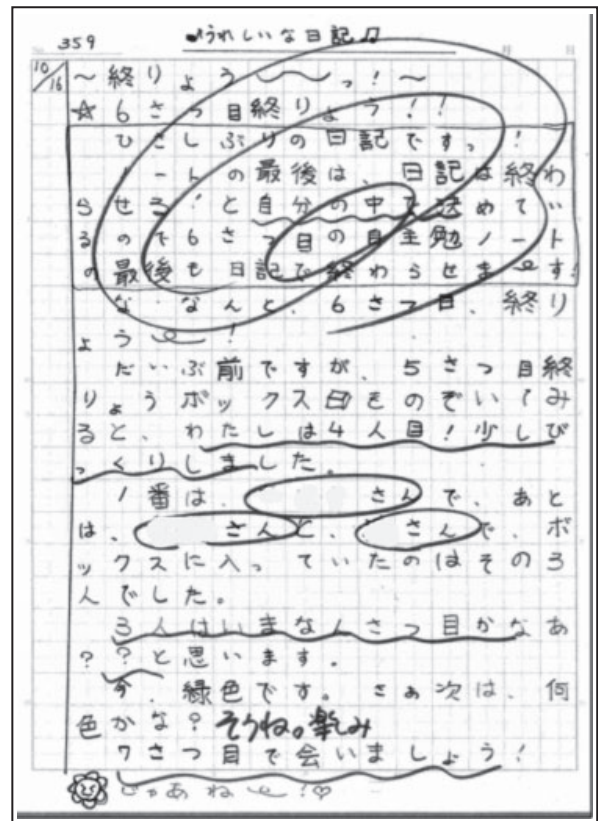


図13 A子の6冊目の
自主学習ノートの最終ページの抜粋

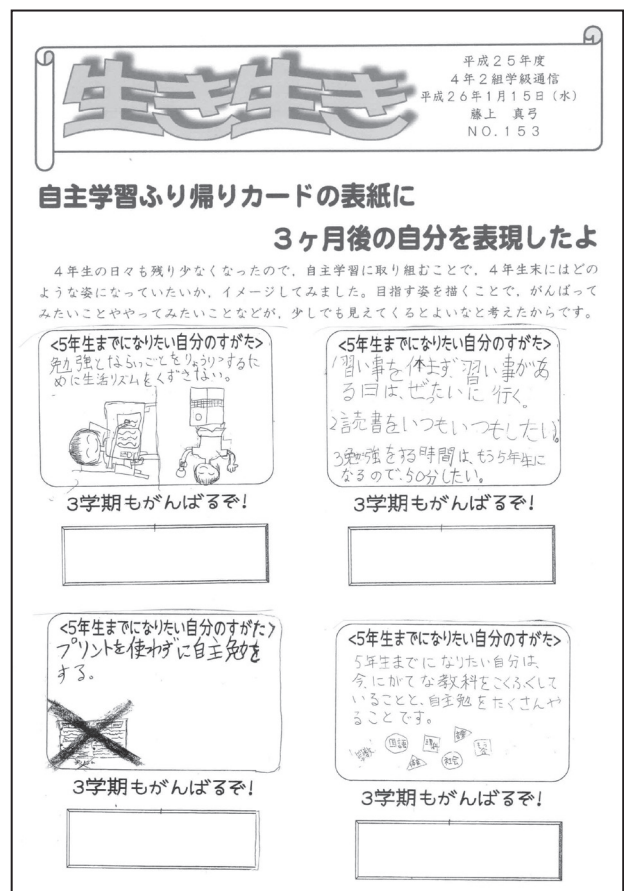


図14 3学期末に子どもが目指す姿を
掲載した学級通信

え、取り組み方を変えようとしていることが分かる。

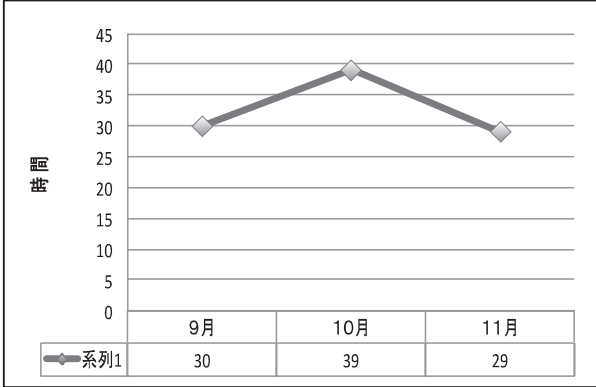
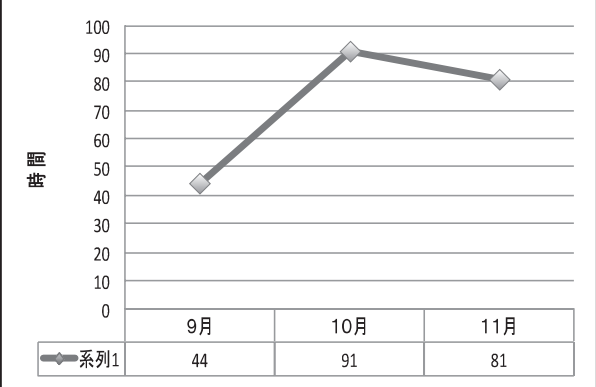
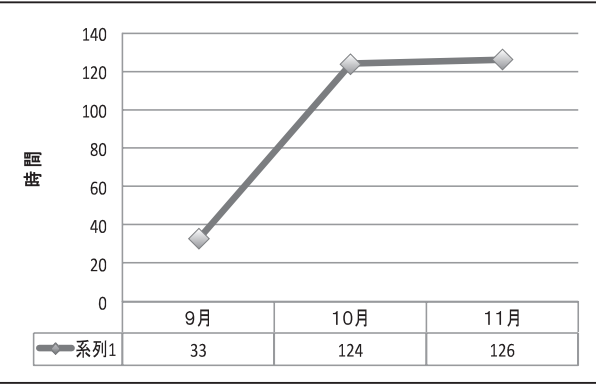
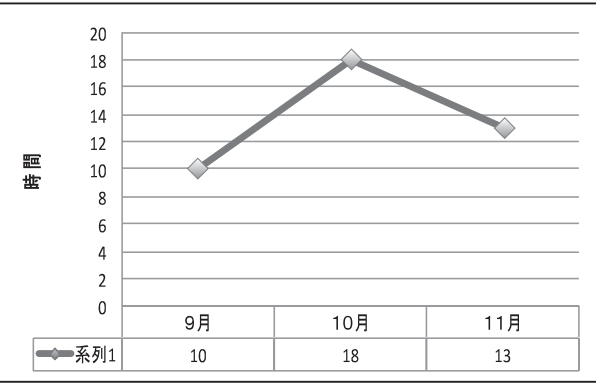
2-2-5 取組の成果と課題

① 取組時間の変容をもとにした分析

A児、F児、G児、H児の4人の2学期（9～11月）の取組時間をもとに分析する。（表4）

9月は、運動会の練習で疲れていたためか、4人以外の児童も取組時間は1学期よりとても減少していた。

表4 A児、F児、G児、H児の2学期（9～11月）の取組時間の結果分析

○常に自分のペースを崩さないA児	○クラス1の取組ページ数を更新し続けるF児																
<p>A児は、9～11月もそうであるが、その後も、どのような状況であっても、自分が立てためあてをもとに、同じ量、同じペースで自主学習に取り組んでいた。</p>	<p>F児は、クラス1ページの進むペースが速く、取組時間も他の児童と比較しても多かった。9月は、放課後に、山口県のある大会に向けてのプレゼンテーションの練習に時間をとられたため、取組時間が減ったが、その後は、毎月同程度の取組時間であった。</p>																
 <table border="1" data-bbox="215 1081 756 1160"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ページ数</td> <td>30</td> <td>39</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table>	月	9月	10月	11月	ページ数	30	39	29	 <table border="1" data-bbox="853 1081 1394 1160"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ページ数</td> <td>44</td> <td>91</td> <td>81</td> </tr> </tbody> </table>	月	9月	10月	11月	ページ数	44	91	81
月	9月	10月	11月														
ページ数	30	39	29														
月	9月	10月	11月														
ページ数	44	91	81														
<p>○取組時間を急激に増やしていったG児</p>	<p>○短い時間の中で、やるべき内容を仕上げるようになったH児</p>																
<p>G児は、1学期から9月にかけて、自主学習の取組時間は低迷していた。しかし、10月以降は、取組時間が急激に多くなり、その時間を維持することができていた。</p>	<p>H児は、取組時間は、めあての40分よりも少ない日が多かったが、取組内容を見ると、毎日の基本のページ数である2ページをきちんとこなしていた。H児は、ふだんの授業の中において、集中力はあるが取りかかりに時間がかかり、設定された時間内に決められた内容をこなすことが苦手であった。しかし、自主学習に取り組む中で、短い時間の中でやるべき内容を仕上げるようになってきたことが分かる。今後は、生み出した時間を活用して、めやすの時間を達成できるよう声を掛けていきたいと考えた。</p>																
 <table border="1" data-bbox="215 1973 756 2051"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ページ数</td> <td>33</td> <td>124</td> <td>126</td> </tr> </tbody> </table>	月	9月	10月	11月	ページ数	33	124	126	 <table border="1" data-bbox="853 1973 1394 2051"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ページ数</td> <td>10</td> <td>18</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>	月	9月	10月	11月	ページ数	10	18	13
月	9月	10月	11月														
ページ数	33	124	126														
月	9月	10月	11月														
ページ数	10	18	13														

② 取組内容について

取組内容の変化について、F児とI児を例に挙げて分析する。(表5)

表5 F児とI児の取組内容についての分析

◇自主学習をシリーズ化したF児	◇自分で決めたことを実行できるようになったI児
<p>F児は、「地理シリーズ」「歴史人物シリーズ」「創作物語シリーズ」などというように、ノートごとにテーマを決め、楽しみながら自主学習に取り組んでいた。</p> <p>F児の取組は、他の児童も賞賛しており、休み時間や朝自習の際に、展示してあるF児のノートを見ている児童が多かった。取組内容に関しても、他の児童に影響を与え、同じように、取組をシリーズ化していった児童もでてきた。</p>	<p>授業中でも、係を決定する時でも、なかなか自分はこのを選ぶという決断をするのに時間がかかっていたI児であったが、終わりの会の前になると、プリントコーナーの前に立ち、取り組んでいきたい内容を短時間で決定できるようになってきた。毎日、自分が決めたページ数に着実に取り組むことができ、自分なりの取組のペースをつかむことができていった。</p>

2-3 子どもたちの変容についてのまとめ

まだまだ、自主学習という宿題が出るから取り組むといった児童が多いが、毎日、与えられた課題ではなく、自分で内容を考えて取り組むことを繰り返してきたので、自分の意志で意欲的に学ぼうとする児童が増えてきた。

内容面においても、表6のような内容に取り組む児童が増えてきた。

表6 子どもたちの取組内容の変容

- ・テストが近づくとその対策のための学習に取り組む
- ・自分の苦手なことを補強する
(例) ローマ字で日記を書く、苦手教科の復習、苦手な漢字を毎日練習する 等
- ・学習で興味をもったことの発展、調べ学習
- ・学習したことを自分の言葉でまとめ直す 等

また、自分のスケジュールの関係で、毎日決まった時間や決まった場所で家庭学習に取り組むことが難しい子どもは、隙間時間を見だし、それを有効に活用していこうとすることができるようになってきた。

おわりに

「すすんですすすんですすみました。10冊目ついに二けた目。ついに。そしておれのイケメン度もついに来た〜。行け行け〇ちゃん(自分の名前)。がんばれ〇ちゃん。ガッツだ〇ちゃん。」これは、F児の10冊目の自主勉強ノートへの記述である。(図15)

F児のように、積み重ねてきた自主勉強ノートを見て、感慨深い言葉をノートに書いたり、表情を浮かべたりする子どもが多く見られた。「自分が取り組んできた足跡が見えること」「自分の取組により自分自身が成長できたという思い」が、子どもたちに学び続ける意味や価値を実感させていくのだと改めて感じた。第4学年の今は、担任や保護者、仲間の励ましや手立てによって維持し続けることができている家庭学習であるが、今後、自分自身で自分の今の状況や求められていることに応じて、学ぶ意欲にスイッチを押したり、必要な学ぶ術を身に付けたりすることができるようになってほしいと感じた。そうなることで、子どもたちの未来を切り拓くための自己マネジメント力がしっかりと身に付いていくはずである。第4学年における取組が、今後の学年においてどのような影響を及ぼして

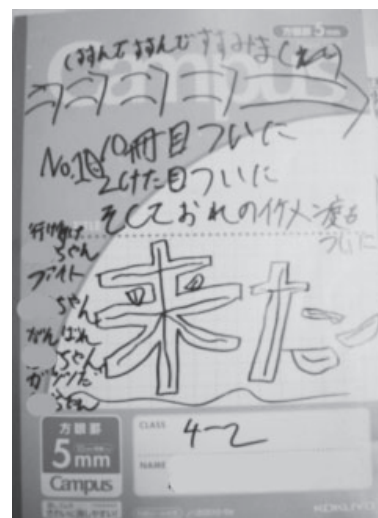


図15 F児の自主勉強ノートへの表紙の記述

いるかについても、研究していくことも必要であると感じた。

また、この研究の課題は、保護者も巻き込んだ研究であったが、家庭学習に対する保護者の意識の変容や我が子に対する思いや考えの変化等について把握する手立てを行わなかったことである。今後の研究の課題としたい。

註

- 1) ベネッセ教育研究総合研究所が、福岡県春日市立日の出小学校の「学問のすすめ」の実践をもとにウェブサイトに自由にダウンロードして活用できるようにして掲載しているものである。
- 2) 「やまぐちっ子学習プリント」とは、やまぐち総合教育支援センターの「やまぐち総合教育支援サイト 子どものページ」に掲載されている「やまぐち学習支援プログラム」（山口県教育委員会）の1つである。子どもたちの学力向上と家庭学習の充実を目指し、山口県内の教師が作成した問題や教材が掲載されているページである。学校版と家庭版があり、家庭版は自宅でも印刷可能となっている。
- 3) 山口県教育委員会は「『子ども元気創造』推進事業」を推進している。「『食事、運動・遊び、読書』90日元気手帳」は、その事業の中で、子どもが「朝食を食べたか」「運動や外遊びで体を動かしたか」「本を読んだか」という視点で、毎日の生活を振り返り記録していくことで、望ましい生活習慣を身に付けることができるように作成された手帳である。

参考文献・引用文献

伊垣尚人：「子どもの力を引き出す 自主学習ノートの作り方」，ナツメ社，2012.

伊垣尚人：「子どもの力を引き出す 自主学習ノート実践編」，ナツメ社会，2013.

藤上真弓：「学力向上に向けての家庭との連携」，平成25年度公集小学校研究紀要，下松市立公集小学校，pp. 57-65, pp. 68-74, 2014.

ベネッセ教育総合研究所：「家庭での会話が弾み国語力が伸びる『日の出っ子ノート』」，VIEW21 [小学版] つながる学校と家庭の学び2010 Vol. 1, p. 30, 2010.

ベネッセ教育総合研究所：「学問のすすめ」，指導ツール集ダウンロードコーナー，http://berd.benesse.jp/berd/center/open/syo/view21/2010/06/data_syo.html